

千葉県 地域リハビリテーション協議会 令和5年7月24日(月)	資料 1-1
---------------------------------------	-----------



## 次期「千葉県保健医療計画」 の策定にかかる検討について

リハビリテーション対策  
(地域リハビリテーション支援体制の整備)部分

令和5年7月  
健康づくり支援課



1

1

### 現「千葉県保健医療計画」(H30~R5) 策定時の検討組織

現「千葉県保健医療計画」※の策定にあたっては、以下の検討組織により検討が行われた。 ※リハビリテーション対策(地域リハビリテーション支援体制の整備)部分

**地域リハビリテーション広域支援センターのあり方検討ワーキンググループ**

- メンバー構成： 地域リハビリテーション広域支援センター職員を中心に組織
- 組織の役割： **ワーキンググループ提言案の作成**
- 検討の内容： 地域リハビリテーション広域支援センター及び関係機関の  
↓ 今後の機能・役割について

**千葉県地域リハビリテーション協議会 地域リハビリテーション検討部会**

- メンバー構成： 千葉県地域リハビリテーション協議会構成団体を中心に組織
- 組織の役割： ワーキンググループ提言案の**検討**  
「千葉県における地域リハビリテーション支援体制のあり方に関する報告書(素案)」(以下、「あり方報告書」)の作成  
↓

**千葉県地域リハビリテーション協議会**

- 組織の役割： 「あり方報告書」をもとに、**計画案**を策定

2

2

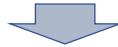
## 次期「千葉県保健医療計画」(R6～R1 1) 策定の検討組織

次期計画※の策定にあたっては、以下の検討組織で検討を行うことについて、第1回協議会(R4. 6.28)で了承された。

※リハビリテーション対策(地域リハビリテーション支援体制の整備)部分

### 県、県支援センター及び広域支援センターを中心としたグループ **新設**

- メンバー構成： 県、県支援センター及び広域支援センターの地域リハビリテーション担当者を中心に組織
- 組織の役割： 協議会において検討の前提となる**骨子案の作成**
- 検討の内容： 現場での取り組みを通じて地域リハビリテーションのあるべき姿を検討



### 千葉県地域リハビリテーション協議会

- 組織の役割： 上記組織の検討した骨子案について、各構成団体の多角的視点から、**検討し、計画案を策定する。**

3

3

## 次期「千葉県保健医療計画」(R6～R1 1) 策定の検討組織

次期計画の**骨子(案)**を作成するため、県、県支援センター及び広域支援センターを中心とした検討グループを立ち上げた。

- 検討グループの立ち上げ：  
令和4年9月27日(第1回検討会)
- 検討グループの名称：  
**「今後の地域リハビリテーションのあり方検討会」**  
(以下、「あり方検討会」とする。)
- 検討会の副題：  
～県、県支援センター、広域支援センターとの意見交換～
- 検討メンバー：  
県、県支援センター、広域支援センター担当者 約20名



4

4

## 令和4年度 「あり方検討会」の開催実績

昨年度は、対面またはWEB開催により、計7回の検討会を実施し、**グループワーク**を中心に検討を行った。

回数	開催日	形式	内容	段階
第1回	R4.9.27	WEB	検討会の設置、保健医療計画の概要説明	
第2回	R4.10.28	WEB	検討会の進め方・スケジュールの説明、グループワーク（事業で大事にしていること）	検討STEP1
第3回	R4.11.16	対面	グループワーク（事業の理念について）	検討STEP2
第4回	R4.12.13	WEB	グループワーク（事業の理念について）	
第5回	R5.1.6	対面	グループワーク（事業の理念について）、グループワーク（理念実現のための目標設定について）	検討STEP3
第6回	R5.1.31	対面	グループワーク（理念実現のための目標設定について）	
第7回	R5.2.28	WEB	まとめ（理念実現のための目標設定について）	

5

5

## 令和4年度 「あり方検討会」の進め方

検討STEP 1

次期計画策定にあたっては、当時の「千葉県地域リハビリテーション検討部会」が作成した「あり方報告書」の「施策の方向性」を再検討するところから始めることとした。

施策の方向性		
<p>&lt;地域リハビリテーション支援体制の整備推進の理念&gt;                      すべての人々が、本人の「したい生活」を実現できるように、リハビリテーションの視点から保健・医療・福祉等の関係機関をつなぎ、適切な支援が切れ目なく提供されるよう関係機関等の支援体制の整備を図る。</p>		
【2つの基本目標】	【4つの推進方策】	【各施策】
基本目標 I 地域リハビリテーション支援体制の強化・充実	①支援機能強化 ②連携体制の充実	○ 広域支援センター・県支援センターの機能・役割の見直し ○ 新たな支援体制の構築 ○ 関係職種に対する普及啓発 ○ 多職種・多機関の「つながり」の強化
基本目標 II 地域リハビリテーションの実現	③住民参加の促進 ④市町村との協働	○ 住民に対する啓発 ○ 専門職による住民活動の支援の促進 ○ 新たな支援体制の構築 ○ 町村等行政機関への事業協力 ○ 地域包括支援ネットワーク構築の場への関係職種の参加促進

千葉県における地域リハビリテーション支援体制のあり方に関する報告書(H28.2月)

6

6

検討会(第2回)の議論 WEB

検討 STEP 1

「地域リハビリテーション事業において、各自が大事にしたい、または、大事にすべきと思うことは何か。」を考える。



「つながりづくり」が大事との共通認識が図られた



【主な意見の例】

- リハ専門職以外とのむすびつき
- リハ専門職と行政とのつなぎ役
- 関係機関とのつながり
- 企業とのつながり
- ちば地域リハ・パートナーとのつながり

7

7

検討会(第3回～第5回)の議論 対面・WEB ①

検討 STEP 2

「あり方報告書」の〈地域リハビリテーション推進の理念〉について考え、その解釈について認識の統一を図る

地域リハビリテーション支援体制の整備推進の理念

すべての人々が、本人の「したい生活」を実現できるように、(1)リハビリテーションの視点から保健・医療・福祉等の関係機関を(2)つなぎ、(3)適切な支援が切れ目なく提供されるよう関係機関等の支援体制の整備を図る。  
あり方報告書P.51より

(1) 検討方法

以下の3つのキーワードの解釈について議論した。

- (1) 「リハビリテーションの視点」とは？ (2) 「つなぎ」とは？  
 (3) 「適切な支援が切れ目なく」とは？

8

8

検討会(第3回～第5回)の議論 対面・WEB ②

STEP2. 理念の考え方に関する検討

(2) 検討結果

(1) 「リハビリテーションの視点」 とは、

➡ その人や地域にとっての**選択肢を提供し、自己決定・自己実現**をサポートする視点 と考える。

保健・医療・福祉等の関係機関を (2) 「つなぎ」 とは、

➡ その人や地域を**評価し、強みや解決すべき課題を見出し、つなげるべき対象(※)**と**効果的なつなぎ方**を考え、**取り組むこと** と考える。

(※)対象とは、人や資源、情報、サービスなどあらゆるものとする。

(3) 「適切な支援が切れ目なく」 とは、

➡ その人や地域の**現状に対する支援**だけでなく、**連綿と続く人生の時間軸**を意識した支援 と考える。



9

9

検討会(第5回～第7回)の議論 対面・WEB ①

検討 STEP 3. 理念を実現するための基本目標の検討

(1) 検討方法

ブレインストーミング方式で、各自が理念の考え方を基に目標を書き出し、カテゴリーに分類しながら検討を進めた。



【第5回検討会の様子】



【第5回検討会の様子】

10

10

## 検討 STEP 3. 理念を実現するための基本目標の検討

## (2) 検討結果①

## 【目標1】 地域リハビリテーションへの理解を広める

## &lt;方向性&gt;

地域リハビリテーションの概念の普及・啓発や広域支援センターの役割を整理し、行政機関、専門職、地域住民の地域リハビリテーションへの理解を深め、広める。

## &lt;推進方策&gt;

- (1) 地域リハビリテーションの概念や本事業の理念の普及・啓発をする。
- (2) 地域リハビリテーションや本事業の理念の普及・啓発のための方法・ツールを開発する。
- (3) 広域支援センターの役割を明確化する。
- (4) 相談窓口の機能・役割を整理する。

11

11

## 検討 STEP 3. 理念を実現するための基本目標の検討

## (2) 検討結果②

## 【目標2】 地域リハビリテーションの活動の基盤をつくる

## &lt;方向性&gt;

持続可能な地域リハビリテーション支援体制の基盤づくりのため、人材の発掘や育成、その安定した活動のための所属機関等への働きかけや予算措置を含めた仕組みづくりを行う。さらに活動のための知識・技術・経験を蓄積し、共有できる仕組みづくりを行う。

## &lt;推進方策&gt;

- (1) 地域リハビリテーションに携わる人材の発掘や育成を行う。
- (2) 所属機関等における地域リハビリテーション活動に対する理解を促進する。
- (3) 地域リハビリテーションの知識・技術・経験を蓄積し、共有する。

12

12

検討 STEP 3. 理念を実現するための基本目標の検討

(2) 検討結果③

【目標3】リハビリテーション視点で地域を理解する

<方向性>

地域に根ざした活動を展開するため、リハビリテーションの視点から理解する取り組みを行う。その際、課題だけではなく強みの部分にも目を向け、それらを可視化する取り組みを進める。

<推進方策>

- (1) 地域を評価方法を確立する。
- (2) 地域の評価する。
- (3) 地域資源を可視化する。



検討 STEP 3. 理念を実現するための基本目標の検討

(2) 検討結果④

【目標4】人や組織、情報等を“つなぐ、つなげる、つながる”

<方向性>

専門職や地域住民同士、施設・機関同士、さらに人と施設・機関そして情報とのつながりづくりを行うことで、課題の解決や各々の人・施設・機関等がより良くなることを支援する。

<推進方策>

- (1) 保健・医療・福祉分野に限らず、専門職同士や施設・機関同士のつながりをつくる。
- (2) 地域住民同士のつながりづくりを支援する。
- (3) 人と情報をつなぐ手段や場をつくる。
- (4) 人と適切な情報をつなげる。



昨年度検討した基本目標を実現するための具体的な取組について、今年度は、引き続き対面またはWEB開催により、計2回の検討会を実施し、グループワークを中心に検討を行った。

次数	開催日	形式	内容	段階
第8回	R5.5.18	対面	グループワーク(具合的な取組例について)	検討STEP4
第9回	R5.6.28	WEB	まとめ(具合的な取組例について)	検討STEP4
第10回	R5年8月(予定)		果たすべき役割、評価指標について	—

検討会(第8回～第9回)の議論 対面・WEB ①

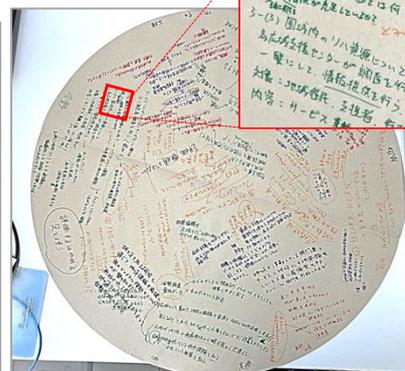
検討 STEP 4. 基本目標を達成するための取組例

(1) 検討方法

各グループに分かれ、各基本目標を達成するための取組例を円卓上の用紙に自由に記載しながら検討を進めた。



【第8回検討会の様子】



【第8回検討会の様子】

## 検討 STEP 4. 基本目標を達成するための取組例

### (2) 検討結果①

#### 【目標1】地域リハビリテーションへの理解を広める

#### 1. 広域支援センターの認知度を上げるためにどのように広報するのかを考えてみよう。

- ① 県・県リハ・広域Cの果たすべき役割を、ハッキリさせよう。
- ② どのような情報を発信すれば、地域住民や関係機関に興味を持ってもらうような情報は何か、検討しよう。
- ③ 効果的な広報媒体は何かを検討しよう。

#### 2. 色々ある窓口を整理してみて活用してみよう。

- ① 地域リハビリテーションの活動に際して広域支援センターや他の相談窓口にどんなものがあるか、どのように利用されているのか、情報を集めよう。
- ② 相談先とタイアップして新たな取組を展開してみよう。

17

17

## 検討 STEP 4. 基本目標を達成するための取組例

### (2) 検討結果② - 1

#### 【目標2】地域リハビリテーションの活動の基盤をつくる

#### 1. 基盤づくりは「ひとづくり」。人材を育成しよう。

- ① 地域リハの担い手となる有望な人材を関係者が協働して発掘しよう。
- ② ①で発掘した人材を効果的に育成するために、新たな「地域リハビリテーション研修プログラム」を開発しよう。

#### 2. 「参加して良かった」と実感できる「効果の見える化」。

より多くの方々に地域リハビリテーション活動に参加してもらうために、所属している施設や医療機関が活動に参加した場合のメリットや効果を提示できるように、効果を検証し、検証結果を「見える化」しよう。

18

18

### 検討 STEP 4. 基本目標を達成するための取組例

#### (2) 検討結果② - 2

#### 【目標2】地域リハビリテーションの活動の基盤をつくる

##### 3. 地域リハビリテーションの活動事例を蓄積し、公開しよう。

地域リハビリテーションの活動事例を集約したデータベースを作成し、公開することで、好事例やノウハウの共有化を図ろう。

##### 4. 支援センター間のフォローアップ体制を構築しよう。

圏域内の地域リハビリテーションに関するニーズに対し、単独の広域支援センターで全て対応するのは難しい。

そのような場合は、県支援センターと共に対応方法を検討し、各支援センターやパートナーの協力を得るなど、フォローアップ体制を取ることで、地域ニーズに添えて行こう。

19

19

### 検討 STEP 4. 基本目標を達成するための取組例

#### (2) 検討結果③

#### 【目標3】リハビリテーション視点で地域を理解する

##### 1. 地域を数値化して評価してみよう。

① 統計データや行政機関等の公開情報等を用いて、地域の特性を数値化し、客観的に地域を評価する手法を考えよう。

② 地域住民の満足度(\*)を測る指標を検討しよう。(※住民満足度調査など)

##### 2. 地域の課題をみんなの「対話」から洗い出してみよう。

地域住民や職種・機関横断的な対話により、地域課題を洗い出す手法を考え、実践を重ね、地域共通で利用できる仕組みや方法などを構築しよう。

##### 3. 自分の地域についてみんなに知ってもらおう。

地域リハビリテーションに関する資源情報を、マップの作成やデジタルツールの活用して、地域に根差した取組を行うとともに、地域住民や支援者にも共有し、地域への理解を深めてもらおう。

20

20

検討会(第8回～第9回)の議論 対面・WEB ⑤

検討 STEP 4. 基本目標を達成するための取組例

(2) 検討結果④

【目標4】人や組織、情報等を“つなぐ、つなげる、つながる”

1. 「つながり」の現状と課題を整理しよう。

地域ごとに、関係機関・職種同士のつながり方や、つながりの強度、その背景は様々。現状と課題を整理して、つながりづくりのアプローチをどこから始めるのが効果的か考えよう。

2. 「つなぐ」「つなげる」ツールを作成し、実践してみよう。

どんなツールがあれば、物理的・組織的・心理的垣根を越えて、専門職や地域住民、施設、団体、機関同士を「つなぐ」、人と施設・機関・情報等の資源を「つなげる」ことができるのか様々なツールを実際に使って検証しよう。

3. つながることの効果を検証しよう。

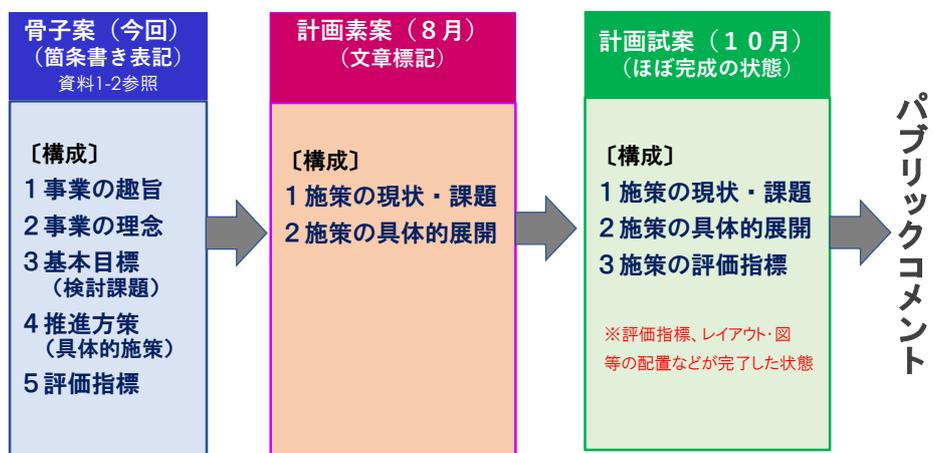
自分だけでは解決できないことを「つなぐ」ことによって、解決への道は広がり、今まで、個別に取り組んできたことを「つなぐ」ことで、「効果は何倍にも大きく」、さらに「もっと色々なことに挑戦できる」というような、つながるメリットや効果を検証し、関係者の理解と協力を得ることを目指そう。

21

21

保健医療計画策定の進め方 「骨子案」作成 から「計画試案」まで

「あり方検討会」や「地域リハ協議会」で検討された骨子案のエッセンスを計画素案に反映させ、必要な調整を経て計画試案を作成する。



22

22

## 地域リハビリテーション支援体制における今後の検討事項

各目標の達成に向けた具体的取組について「あり方検討会」等の場において検討を重ね、本協議会に進捗状況を報告を行っていく。

### ～ 検討中の取組 ～

#### 【テーマ】

「地域リハビリテーション」や「広域支援センター」についての認知度を高めるため、どのような情報を発信していくのか。

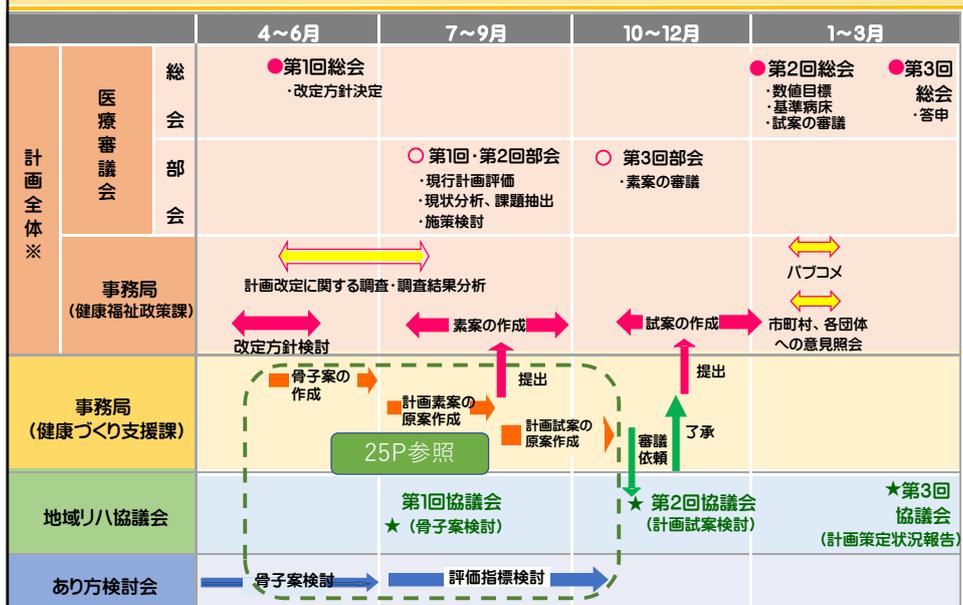
#### 【検討例】

- 様々な媒体に共通して使用できるよう、提供可能な支援のメニューを整理し、提示する。
- 医療機関や関係団体に対しては、各広域支援センターごとのメニューづくりや興味を持ってもらえるような活動を紹介する。

23

23

## 次期「千葉県保健医療計画」(R6～R11)策定のスケジュール



24

24

## 次期「千葉県保健医療計画」(R6～R11)策定のスケジュール

【骨子案作成から試案作成まで】

